



あのときの常呂・写真館

VOL 27

(1974年)

昭和49年8月3日 土佐区開基80年記念行事



▶土佐は明治28年5月11日に四国土佐の人28世帯が団体移住し「土佐」と名付けて以来、昭和50年5月に80周年を迎えるにあたり、昭和49年1月12日の区の総会で準備委員会を設置、1月22日の同委員会で式典・祝賀会・記念碑の建立・郷土史の発刊を決議。前年48年は農畜産物の価格高値に



より経済情勢も良く、資金調達も見通しが立ったため、1年早い昭和49年8月3日に実施することになりました。

▶「土佐郷土史」では、当日の記念行事を次のように伝えています。

麦穂が波打つ8月3日、開基80年の喜びに沸く土佐は、数日前から式典の会場となる土佐公民館に祝賀のアーチ、看板が取り付けられ、内外の装飾などすべての準備が整った。

午前6時、澄み切った大空にとどろく五段雷の花火が打ち上げられた。

公民館前に集まった大勢の人々が見守る中を仮装したトラクターのパレードは午前8時、花火を合図に宣伝カー、先導車、オープンカー、開拓当時の姿をかたどった仮装トラクター19台と「のぞみの園」に贈る野菜を積み込んだ車、そして即売する野菜を満載した車の順で部落民の拍手と行進曲に送られ、のぞみの園、駅前、役場前、小学校前とコースを取り、土佐公民館に戻った。

途中、沿道の人々から祝福を受け、のぞみの園では野菜をプレゼントし、感謝の歓迎を受けた。役場前では野菜の大特売会を開き町民から大好評を受けた。

午後2時、土佐公民館に建立した開拓記念碑の除幕式、引き続き公民館で記念式典が行われ、開拓者に黙祷、区長の式辞、開拓の功労者に表彰・感謝状の贈呈、土佐章の披露、祝辞等で終了、祝賀会に移り土佐章を浮き彫りにした灰皿を記念品に、午後6時に終了した。

▶記念行事の中からいくつかを「土佐郷土史」から詳しく紹介します。

【トラクター仮装パレード】

開基80年を祝う最大の行事が19台のトラクターによる仮装パレード。入植当時の暮らしや作業を人形で表現し、人形が自動的に動くよう工夫する骨子で準備を進め



ました。中心は13人の青年たち。人形製作班、部品工作班などいくつかの班に分かれて材料探し・持ち寄りで製作。入植当時のソリを造る人、ペンキで絵を描き人形の顔を描く人、人形に着せる古着を探し、ワラジ・ツマゴを高齢者から教わる人、当時の生活用具を探し回る人など製作期間10数日で仕上げました。

当日、午前8時に飾り付けをしたトラクターが勢揃いし、見送りに来た子どもや女性たちに紅白のまんじゅうが配られ、協賛会長のあいさつ・花火を合図に出発。土佐章・祝土佐開基80周年記念パレード幕を掲げた3台の連結車、ビート・馬鈴薯の特産物車、明治28年団体移住団長／田村喜造の肖像画を乗せた車、まさかりで木材を伐採している人形車、伐根作業の人形車、アドバルーンを上げたジャンボトラクターが最後を飾り、盛況の内にパレードを終えました。

【土佐章の制定】

前ページのトラクターにある土佐のシンボルマークの意味は、外側の円は「和」を象徴し、円に挟まれた「金色」の部分は「大地」を、柏の葉は入植時の原始そのものだった厳しい自然環境と開拓魂を、3枚の葉は3つの農事組合が手を結び土佐の礎を築いたことを、大地と柏の葉に挟まれた「青」は「オホーツク」を、3つの枠は外へ向かい、開拓者の偉業と現在、未来へ発展する姿を象徴しています。

【野菜即売会】

町民還元用に地域ぐるみでスイートコーン、トマト、ナスビ、キュウリ、ピーマン、白菜、キャベツ、ニンジン、大根、レタスなどを育て収穫。当日は野菜を満載した車がパレードに同行、役場前で特設会場を設営して即売。スイートコーン3本100円、キャベツ1ヶ100円、トマト、ナスビ、キュウリの詰め合わせ100円、馬鈴薯1袋30円という破格の安さ、写真の通りの大盛況でした。売上金26,355円は常呂町の社会福祉事業に寄付されました。





▶ 3枚の写真は記念式典のようすです。

記念碑の題字は「開基八十年記念碑」、石は仙台黒石。

＊この記念碑は、平成6年の開基百年の際、台座はそのまま、上部を「開拓記念碑」に取り替えています。

＊肖像画は、明治28年団体移住団長／田村喜造

＊土佐公民館は、冠婚葬祭などにも利用が増大し、手狭になったため、このときに炊事場を拡大して小会議にも使えるよう4.5坪増築し、単独の水道も完備しました。